

鉄道文化シンポジウム

鉄道のまち 「さいたま」の 140年 1885 ▼ 2025 —未来に向けて—

シンポジウムの趣旨

鉄道がさいたま市の生活文化に及ぼした影響や、鉄道のまち「さいたま」のこれまでの変遷とこれからの未来についてを議論します。皆様のご参加をお待ちしております。

入場 無料

※事前申込制



令和
7年

1月11日 土

開場

17:00

開演

18:00

終演予定

20:00

レイボックホール

RaiBoC Hall.

さいたま市民会館おおみや

小ホール(7階)

定員300名

申込
方法

以下 ①・② のいずれかの方法でお申込みください。

① 文化振興事業団HPまたはQRコードから申込フォームにアクセス

URL <https://formok.com/f/rlko9rhg>

② SaCLaインフォメーションセンターへ電話

申込
期間

令和6年12月3日(火)から令和7年1月10日(金) 23:59 まで

※電話でのお申込みは10日 17:00 まで

問い合わせ

SaCLaインフォメーションセンター

TEL 048-866-4600

営業日 火～土の9時から17時

(日・月・祝日・年末年始は休み。月曜が祝日の場合翌日火曜も休み)
※お電話のおかけ間違いにご注意ください。

SCAN ME

申込
QRは
こちら



Smartphone or Tablet

場所

レイボックホール
RaiBoC Hall.

さいたま市民会館おおみや

〒330-0846

さいたま市大宮区大門町二丁目118番地 (大宮門街4～8階)

JR線・ニューシャトルほか 大宮駅東口より徒歩3分

オオミヤカドマチ



さいたま市
PRキャラクター
つなが竜又ウ

シンポジウムの開催目的

今年度末には、昨年度の浦和駅につづいて大宮駅が開業140周年を迎えます。大宮駅の開設は、今日のさいたま市の発展に大きな影響をもたらしました。そこで、大宮駅開業140周年を機会に鉄道文化に関するシンポジウムを開催し、さいたま市と鉄道とのかかわりを考え、市民等にさいたま市の鉄道文化について理解と関心を深めていただくことを目的とします。

主な内容

- ・鉄道がさいたま市の生活文化に及ぼした影響について
- ・鉄道のまち「さいたま」のこれまでの変遷とこれからについて
- ・そのほか、シンポジウム参加者の質問にお答えします。

出演者

コーディネーター

- ・老川慶喜(立教大学名誉教授)

パネリスト

- ・伊藤陽平(日本学術振興会特別研究員)
- ・奥原哲志(鉄道博物館主幹学芸員)
- ・志村和臣(東日本旅客鉄道株式会社大宮支社地域共創部長)

司会

- ・佐久間愛(フリーアナウンサー)

鉄道のまち「さいたま」

●明治 ●令和●



明治40年頃
大宮駅西口川越電車発着所



大正3年
大宮駅ホーム



昭和30年代
大宮駅東口



昭和57年
東北新幹線開業



平成12年
さいたま新都心駅竣工

当日進行表

	20時		10分間			18時	時分
	終了	閉会の挨拶 老川慶喜(立教大学名誉教授)	討論・質疑応答 【コメント】 老川慶喜(立教大学名誉教授) 奥原哲志(鉄道博物館主幹学芸員) 伊藤陽平(日本学術振興会特別研究員) 志村和臣(東日本旅客鉄道株式会社大宮支社地域共創部長)	休憩	報告 老川慶喜『大宮駅の開設と地域の変容―片倉製糸と愛光舎牧場―』 伊藤陽平『さいたま新都心の誕生』 志村和臣『JR東日本のさいたまエリアでの取り組み』	基調講演 奥原哲志『「鉄道のまち」その成立と展開―大宮を中心に―』 主催者挨拶 清水勇人(さいたま市長)	内容

